

# アメリカ3州ウェブ調査回答者の属性に関する研究

—American Community Survey との比較より—

○金沢大学 伊藤大将

## 1 目的

日米の若年世代の価値観や社会意識を、社会調査データの比較分析により明らかにするという、学際プロジェクトを実施している。2017年3月にアメリカ合衆国の3州の居住者を対象とするインターネット調査を実施した。本報告では、この調査データと既存調査データの比較に基づいて、データの質を検討し、アメリカにおける学術的なインターネット調査の可能性と注意点について考察したい。

## 2 方法

研究グループが独自に設計・実施した Survey on Ethics and Social Issues (以下、アメリカ3州ウェブ調査)のデータを用いる。調査時点のアメリカ社会の 이슈を考慮して2016年大統領選での投票行動や政権支持を加えた、43問(約100項目)の質問項目を設定した。対象者は、大統領選挙での投票行動が特徴的な3州(California, Georgia, Michigan)の居住者、2016年末時点で満18歳~39歳で、計画標本サイズを各州300人とした。調査方法は、調査会社の保有する登録モニター(SSI USA PANEL)に回答を依頼し、Webを通して回答を得る(自記式)という、インターネット調査である。標本設計はU.S. Census Bureau, 2011-2015 American Community Survey 5-Year Estimates(以下、ACS)の母集団情報を用いて、性別×年齢階級(18-24歳、25-29歳、30-39歳)で割付を作成した。回収ケースに対して回答時間等のチェックを行い、最終的には各セルの目標回収数を充たす、3州で合計934ケースの有効回答を得た。調査期間は2017年3月2日18時~7日14時(日本時間)であった。

## 3 結果

アメリカ3州ウェブ調査の被験者の人種、個人収入、学歴といった属性とACSの被験者の属性をカイ二乗検定とt検定を使って比較し、ウェブ調査に参加した被験者の特徴がそれぞれの州の住人の特徴を捉えているかについて検討した。人種や婚姻区分に関しては、各州ともアメリカ3州ウェブ調査とACSの間にそれほど大きな差は見られなかったが(Cramer's V=0.02以下)、個人収入はすべての州においてウェブ調査参加者の方が高かった。教育レベルは、高校中退、高校卒業の割合がACSに比べ低く、大学卒業以上の割合が多いという傾向が3州で見られた。教育に関しては同様の傾向が日本でも見られた(轟・歸山 2014)。

## 4 結論

本調査の結果から、アメリカでのウェブ調査の参加者は学歴と収入が母集団よりも高い可能性があることが示唆された。よって、ウェブ調査を用いた調査結果を解釈するときには、学歴・収入が高めの人々の意見が反映されやすいという点について注意が必要である。今後、轟・歸山(2014)が行ったように、属性変数の比較だけでなく、属性変数と意識変数の関連を見たり、重回帰分析の結果がどれくらい類似するかについても調査をしていくことが必要だろう。

## 文献

轟亮・歸山亜紀, 2014, 『予備調査としてのインターネット調査の可能性 一変数間の関連に注目して—』社会と調査 12:46-61.

(本研究はJSPS科研費JP16H03689の助成を受けたものです。)